ROGERS
LINDSEY
MARIKO

ロジャーズ・リンジー・マリコ

1994年1月12日生まれ。アメリカバージニア州バージニアビーチ出身。バージニア大学教育学部卒業。実家はバーベキューレストランで両親、兄、姉との５人家族。趣味は読書と料理。

「広い心と視野を持って世界観を広げてほしい」

庶路学園の教室に流ちょうな英語が響き渡る。アメリカ出身のリンジー先生は、庶路学園と庶路こども園を担当するＡＬＴ（外国語指導助手）だ。

「子どもの頃から教員になることが夢でした。それに私の祖父と祖母が日本人なので、日本の文化や生活に興味を持っていたんです」と、ＡＬＴに応募した理由を話した。リンジー先生は、自分が勤務する自治体は選べなかったが、配属先が白糠町で良かったという。

「地元のバージニアビーチには海があり、泳いだり日光浴をするのが好きでした。白糠町にも海があったので、本当にうれしかったです。天気の良い日は海に行って波の音を聞くと心が落ち着きます」

冬の寒い日、リンジー先生はすれ違った見ず知らずの女性の方から、使い捨てカイロをもらった。その時のカイロは、体だけではなく、心までも温かくしてくれた。

「私はまだ、日本語を上手に話すことも聞くこともできませんが、そんな私にも町民の皆さんは声をかけてくれます。アメリカから遠く離れた白糠町で暮らしていくことに、最初は不安でしたが、今は皆さんが声をかけてくれるし、優しくしてくれるので、安心して生活しています」

リンジー先生は、庶路学園の生徒や先生たちとも、良いコミュニケーションが図られている。

「職員室があることに驚きました。アメリカの学校には職員室がありません。先生には一人ひとり個室が与えられています。ですから、先生同士でコミュニケーションをとる機会が少ない。でも、日本には職員室があり、先生同士の会話や相談もあります。私には身振り手振りでコミュニケーションをとってくれる先生もいます。それは、とても良いことだと思いました」

リンジー先生は、授業を通してどんなことを伝えたいのか。

「世界中にはいろいろな人がいて、文化や生活が違っていても、共通点もたくさんあります。ですから、先入観を持たずに、広い心と視野を持って、世界観を広げてほしいと思います」

リンジー先生は、昨年の冬休み中、一人で東京を旅行した。

「最初は怖かったけれど、今ではやればできるという自信になっています。勇気を持っていろいろなことに挑戦することが、自分の成長につながります。私の好きな言葉に『つらいことがあっても、きっと幸せは訪れる』という言葉があります。もし、今がつらくても乗り越えた先には、きっと自分の成長と幸せが待っています」

庶路学園での授業の様子。「生徒たちは、すごく元気で、おもしろい。いつも私を笑わせてくれます」と、リンジー先生。